



岡本眞利子 議員
(政清会)



国が指定するナショナルルートとして道内で初めて「トカプチ400」が選ばれた。

「トカプチ400」は帯広市を起終点に上士幌町から大樹までの管内12市町村を8の字で結ぶ延長403kmのルートであり三国峠、十勝平野、太平洋などの景観を望むことができ、本町もそのルートに含まれ、道の駅忠類は休憩施設に指定された。これをチャンスととらえ本町のPRをすべきである。以下伺う。

- (1) 「トカプチ400」指定と町の関わり
- (2) 受け入れ環境と今後の改善点
- (3) 「トカプチ400」に伴う効果
- (4) 今後の忠類地域の新たなPR

町長

(1) トカプチ400は、十勝のサイクルツーリズム推進の基幹ルートとして、平成29年に設定され、本町では途別地区から栄地区までの道道更別幕別線と町道東4線、忠類朝日の町道北10線から国道

問

ナショナルサイクルルート「トカプチ400」について

答

ルート沿線の市町村・関係機関との連携強化を図り有効な取り組みを検討する

236号沿いに忠類共栄まで、忠類晩成の国道336号、十勝中央大橋から札内橋までの河川敷の合計約28kmがルートに含まれている。(2) ルートの案内看板や路面表示など分かりにくい箇所があったため、今後、町道だけでなく、国道や道道、河川敷等についても関係機関と連携を図りながら、サイクリストが走行しやすい表示の整備を進め、安心・安全に走行するための環境整備を国や北海道に要望したい。

(3) 国内外に対する国や道、関係団体が一体となったPRが可能になり、サイクルイベントなど関係者の取組を通じて、多くのサイクリストが十勝を訪れていただけると期待している。ルート沿線の宿泊施設や飲食店などに対する経済効果だけでなく、十勝の景観を体感し、好印象を持っていたくともにも、十勝管内の住民がこれを機会にサイクリングを始めることで、健康増進の効果が期待できる。(4) 引き続き、ルート沿線の施設と

の連携や地域おこし協力隊による情報発信を行い、道の駅・忠類を拠点としたルートについて、サイクリストの意見を聞き、忠類地域への滞在につなげられるルートの設定を協議する。

再質問

地域ルートとして初心者や観光客向けのサブルートを新たに検討して頂き、本町の観光振興につなげていくべきである。

答 十勝らしい風景、おいしい農畜産物を使った食べ物、温泉等を活用しながら、ランチツアーなども計画し、季節に応じたサブルートを情報発信していきたい。

問

男性の育休・産休の促進について



積極的に促進しなければならぬ施策

答 男性が育児休業を取得しやすい制度を定めた「育児・介護休業法」改正法が本年6月に成立。男性の育児休業の取得率は低く、その要因は何であるのか。

来年10月には「出生時育児休業(男性版産休)」が施行される予定であるが、本町男性職員の取得状況について伺う。

- (1) 男性職員の取得率と目標
- (2) 育児取得促進の取組
- (3) 「イクボス」促進の考え

町長

(1) 昨年9月1日から1年間で男性職員配偶者の出産が9人、育児休業取得は1人で、取得率は11.1%である。

(2) 育児休業取得希望職員の意向を早期に把握し、所属職員とのコミュニケーションを大切に業務調整を行うなど、応援し、助け合える職場環境づくりに努めている。

(3) 仕事の時間の使い方や文書、書類等の簡素化・効率化、さらに育児休業を安心して取得できるよう機運を高めていきたい。

再質問

男性職員の育児取得100%を目指し、今後民間企業モデルケースとして推進を図っていただきたい。

町長

所属長を中心に結婚した部下がいれば気にかけて、温かい言葉をかけるといったことを各部署でやっていく中で、機運が高まると思っている。